

細谷地遺跡 (ほそやちいせき)
第35次調査 向中野

これまでに奈良・平安時代の竪穴建物跡が230棟以上確認されている古代の大規模集落遺跡です。昨年度までの調査区の南東部を調査しました。今回の調査では縄文時代の陥し穴状土坑3基、古代の竪穴建物跡6棟、竪穴状遺構1基、時期不明の土坑15基、溝跡4条、ピット25口が確認されました。平安時代の竪穴建物跡からは土師器の坏・小型甕・甕、あかやき土器の坏・甕、須恵器の坏などが出土しました。調査区の東側からは雫石川の旧河道が確認されており、縄文時代には川に集まる動物を狩る猟場として、古代には旧河道に沿って集落が形成されていたことがうかがえます。また昨年度までの調査と比較すると、遺跡の南側では集落の密度が低くなると考えられます。



古代の遺構群



土器出土状況



調査風景

赤袋遺跡 (あかほろいせき)
第4次調査 西青山

西青山一丁目目に所在し、遺構は平安時代11世紀の竪穴建物跡1棟、土坑8基が確認されました。竪穴建物跡にはカマドはなく、中央に大きな炉があり、炉の近くには土器整形の轆轤穴が確認されました。竪穴建物の廃絶後、竪穴の窪みを活用して大量の土器が焼かれたことが判明しました。土坑のうち4基は土取穴であり、2基は土器焼成のための施設です。土器には土師器の小皿や坏、内面黒色処理された高台付坏、ミニチュア土器などがあります。特徴から11世紀前半の土器であり、ここで生産された土器は、安倍氏の拠点等に供給されたものと考えられます。



竪穴建物跡



土器出状況



轆轤穴

国指定史跡 盛岡城跡 (もりおかじょうあと)
第35次調査 内丸

今年度盛岡城跡の発掘調査は、昨年度の三ノ丸北西下の石垣の延長部分を確認するため実施しました。その結果、石垣は後世に除去されて確認されませんでした。掘立柱の門跡1棟、門柱穴1口、坂道1箇所、堀1条を確認しました。坂道は西側の新御蔵前から三ノ丸下の鳩門へと登る坂道であり、江戸中期の盛岡城図にも描かれています。門跡はこの坂道の途中にあり、柱は2本で冠木門か棟門と考えられます。堀は一部のみ確認しましたが、絵図にはまったく表現されておらず、盛岡城築城時、または不來方城の空堀の一部と考えられます。



調査区全景

大船渡市 大洞貝塚 (おおほらかいづか)
第1次調査 赤崎町

大洞貝塚は、大船渡市赤崎町字大洞に所在する、縄文時代晩期を主体とする貝塚です。大正時代から続く調査により、アサリを主体とする貝層から土器・石器のほかに、内陸の遺跡では残りにくい人骨や獣骨、骨角器など貴重な成果が発見されています。今年度の調査は、震災で被災された方の個人住宅再建に伴う事前調査として行いました。調査区は、丘陵下の南西方向の緩斜面上に位置しており、縄文時代晩期の遺物を含む沢状の地形が入り込む場所でした。沢状地形からは縄文時代晩期のほかに、縄文時代前期初頭や弥生時代前期～後期の土器や石器も出土しています。また、沢が埋まった後に作られたと考えられる、弥生時代以降の炉跡や掘立柱建物跡なども見つかっています。



調査区全景



土器出土状況

